

単収200kg以上、2等級以上を目指して 中耕・培土、排水対策、追肥等のポイント！

1 作業・生育状況

- 管内の播種作業は、比較的順調に進んでおり、良好な出芽苗立ちが期待される。
- 梅雨入り(平成6月12日頃)後に播種を行う場合は、天候不順な日が増えるので、晴れ間を見てすみやかに作業を行う。

2 中耕・培土

(1) 中耕・培土の効果

- ①湿害防止(表面水の排水)
- ②根系の拡大
- ③倒伏防止
- ④雑草防除

生育促進、収量・品質の向上

(2) 作業のポイント

実施時期・位置のめやす(下図参照)

1回目: 第2本葉展開期頃(播種後20~25日頃)

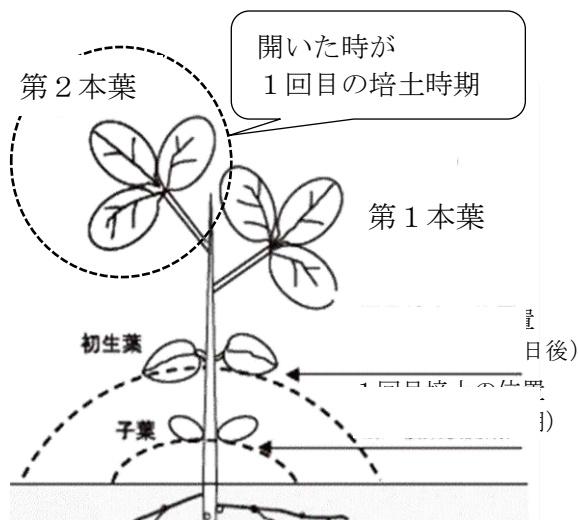
→ 子葉節まで

2回目: 1回目の2週間後頃(播種後35~40日頃)

→ 初生葉節まで(高さ15cm程度)

○適期に2回行う。

- 〔1回目は梅雨時期にあたるため、本葉が2枚になったら早めに実施する。〕
- 〔2回目は開花始期(7月20日頃)までに終える。〕



○作業の留意点

- ① 雑草の発生が早い場合や多い時
特に1回目作業が遅れないよう注意し、必要により作業回数を増やす。
- ② 出芽不揃いのほ場の場合
生育良好な部分を基準に作業し、培土高は低めにする。
- ③ 茎元の土寄せ
株元がへこむと、培土の効果が発揮されず、株元に水が溜まり病害を招く恐れもあるので、株元までしっかりと覆うように培土する。

3 排水対策

- 中耕・培土後の溝は必ず周囲明渠（排水溝）に連結する。
- 周囲明渠は確実に排水路に連結し、降雨後の表面水が速やかに排水されるようにする。
- 本格的な梅雨に入る前に、排水溝の崩れを点検し、暗渠栓を開放する。

4 追肥

- 湿害による葉の黄化や生育不良の症状が見られたら、排水を促した後、速効性肥料を窒素成分で 10a 当たり 2～3 kg 追肥し、培土する。
- 低地力が原因で収量が低い（めやす：実収 200kg/10 a 以下）ほ場では、緩効性肥料（シグモイド型被覆尿素 60 日タイプ）を、2 回目の中耕・培土前に窒素成分で 10a 当たり 6～8 kg 施用する。

5 雑草防除（帰化アサガオ類の防除）

- 帰化アサガオ類の発生が増えている。確認されたほ場では対策を徹底する。
- 完全防除には除草剤と中耕・培土等を組み合わせた体系防除が必要。
まん延防止のために、農道や畦畔を含めた雑草管理を徹底し種子の増殖を防ぐ。
- 帰化アサガオ類は春から秋まで長期にわたって出芽する。「つる化」すると防除が困難になるので、下表を参考に概ね 2～3 週間毎に防除を繰り返す。

表 防除時期と内容の例

防除の時期	防除の内容
播種後早めに	有効な土壌処理除草剤を散布
大豆 2 葉期	大豆バサグラン液剤、アタックショット乳剤の茎葉又は全面散布
6 月下旬	中耕・培土 1 回目
大豆 5 葉期以降早めに	バスタ液剤の畦間散布
7 月中旬	中耕・培土 2 回目
適時（8 月中旬頃まで）	手取り除草

- 帰化アサガオ類以外の雑草でも、降雨等で作業が遅れ、中耕・培土だけでは十分な除草効果が得られない場合は、生育期に適用のある除草剤を散布する。

6 病虫害防除

- アブラムシ類は褐斑粒発生の原因となるので、発生初期に殺虫剤を散布する。

農薬の使用にあたっては、ラベルに記載されている使用基準や注意事項・使用方法をよく読み、内容を遵守して使用しましょう。近隣の作物や田畑に飛散しないように十分注意してください。